

建設と林業、共生を

業者ら160人がフォーラム

岐阜市

全国の建設企業経営者らでつくる団体「建設トップランナーフォーラム」の環境ビジネス・森林再生合同分科会が三十一日、岐阜市橋本町のじゅうろくプラザで開かれ、建設・林業や土木行政関係者らが講演とパネルディスカッションを通じて「建設業と林業の共生・協働」を考えた。

この後、米田教授や県森林組合連合会の三島喜八郎副会長らをパネリストに、討論と質疑が繰り広げられた。

全国的中小建設企業を支援している同フォーラムと県建設研究センターの主催。県内を中心に約百六十人が参加した。

同フォーラム顧問で慶応大学の米田雅子教授の

基調講演に続いて、井納建設（本巣市）の井納英昭専務が「山から川への贈り物」、極東森林開発（山県市）の中原丈夫社長が「CO₂と水を考えたい林業経営」をテーマに講演した。

井納専務は、木材を使った伝統的な河川工法の事例を紹介し「土木工事も環境への配慮が求められ、健全な森林は豊かな河川環境にとっても必要」と強調。中原社長は「林業の現場では土木技術が必要とされている。公共事業だけに頼らない土木業の生き方を」と提起した。



建設業と林業の関係者が共生・協働を考えた分科会
＝岐阜市橋本町、じゅうろくプラザ